

http://www.minamih.net/



13・7・13(土)
南NEWS NO26

新しいコーチです。 よろしくお願ひします。

南の13期生で1年生中西君のお父さんである中西さん、2年生中村君のお父さんである中村さんがCクラスの指導スタッフに加わってくれました。中村さんもサッカーの経験があるとのこと。心強いです。南の“ドリブル中心・だんごサッカー”の指導方針をよく理解して、子ども達とサッカーを楽しんでいただきたいと思ひます。

サッカーではコミュニケーションがないチームは試合に勝てません。無理なく・できる範囲で活動し、報告・連絡・相談の報連相(ハウレンソウ)を大切に、子ども達と共に育つサッカーを通しての共育を楽しんでくださいね。

b y 南のアンパンマン



国語は全ての教科の基本です。

明治大学教授の斎藤孝氏も書いていますが、国語力は全ての教科の基本だと改めて実感しています。

ニュータウンにある学校で3年生の理科を教えています。テストでは、問題をよく読んで、写真や図をよく見れば分かる問題ばかりですが、間違える子が何人かいます。題意を読み取る力、写真や図をしっかりと見る力が不足しているのです。

「3回は問題を読もうね。写真や図をよよく見ようね」といつも念を押すのですが、「同じですか、ちがいますか」と訊いているのに「どう答えるの」と質問してくる子がいます。「2つ〇をつけなさい」というのに1つしか〇をつけなくて10点引かれてしまう、記号で答えなさい」というのに言葉で答えてしまう等のミスは、問題が何を訊いて、どのように答えなさいと言っているのかを読み取る力が不足しているのです。

夏休みが来週から始まります。文を文として読む力・音読、読書、教科書に載っているお話や好きな童話を丁寧に視写する・全文視写に取り組んでほしいと思ひます。読み取る力を育み、優れた文章を書き写すことにより文章を書く力も向上させる効果もあります。

サッカーには動筋を使ひます。学習には同じ姿勢を保つのに必要な静筋を使ひます。静筋が弱い子は体をくねくねと常に動かす傾向があり、学習に集中できません。先ず、机に向かって5分、10分、15分と全文視写等に取り組むことにより静筋が発達してきます。

塾などに行かなくても、子ども達の学力を向上させることはお家でも十分にできます。

南の6期生・守島功七君を由井三小6年生の時に担任しましたが、毎日GAMBANOTEにその日の授業の復習をして、日記や詩も書いてきました。読書が好きな学習もサッカーも優秀な子どもでした。

中学・高校でも「僕には合わない」と言ひて塾に行かず、自宅学習だけで超難関私立大学に現役合格を果たしています。今は日本の光学器械・事務機器のトップメーカーで管理職として活躍しています。先輩に続いてほしいです。

今の南の6年生・中居君はGAMBANOTEに理科の復習をしています。

b y 南のアンパンマン

猛暑日の日数が過去の4倍になっていると言われてひます。ゲリラ豪雨や集中豪雨の被害が続出しています。今週は水曜日・金曜日ともに光化学スモッグの注意報が出たので午後練は中止になってしまいました。

今を生きて、未来を生きる子ども達にとって“持続可能な地球環境の維持”は大変重要な課題です。誰かにお任せというわけにはいきません。それぞれが自分で状況を判断し、何を為すべきか選択し、実行する力、反省して次に活かす力を培うことは、これからを幸せに生きるために必要なことです。

大人達は子ども達に持続可能な地球環境を残し、託すためにしなければいけないことがありますよね。以下の文をお読みください。



坂本龍一さん

YMOを結成。87年に映画「ラストエンペラー」でアカデミー賞・オリジナル作曲賞を受賞。

自身の音楽活動の他、プロデューサーとして他のアーティストへも多数の楽曲提供を行う。

現在ニューヨーク在住。森林保全団体「モア・トゥリーズ」の代表も務める。



1. 環境問題に関心を持ったのは身近なことがきっかけだった

僕が環境問題に関心を持ち始めたのは、実はとても身近なことがきっかけでした。一つは自分の子どもが僕の年齢になった時、地球や環境はどうなっているのだろうかと考えたからです。例えば0歳の子どもが20歳になった時のことを想像すると、未来がグッと現実味を帯びてイメージできるようになったのです。

もう一つの理由は老化です。自分の体が生身だということを改めて知らされ、自分の体も自然の一部であると突きつけられるわけです。体のことを考えれば、毎日の食事、飲んでいる水、吸っている空気が不健康なものだと困ります。そんなことを考え始めると、環境への関心がより深いものになってきました。

僕は今、「モア・トゥリアーズ」という森林保全団体で、自治体や森林組合、民間と連携して森林保全に取り組んでいます。山深い森の中で働いているのは、ほとんどが高齢者です。その方達はふだんから木や森を相手に暮らしているのです。環境の変化にとっても敏感です。自然の状態が悪くなると直接の害を被るわけですから、意識が高くなるのも当然なのかもしれません。そういう方たちから「日本も早く低炭素社会にならないといけないね」という言葉が出てくると、正直驚かされます。

2に続く。

2013・5・31 朝日新聞朝刊

福島の子も達との交流

葉山ホームステイ・遠征の翌々日の8月6日(火)・7日(水)の両日、福島・飯館村の子も達と交流してきます。今回は剣玉の先生達も一緒です。パワーアップして子ども達と楽しく交流してきます。福島の実状・課題についても学んできます。皆様から寄せられた義援金をお渡ししてきます。後日レポートさせていただきます。

b y 南のアンパンマン